

■「効果の見える治水事業」
香川県 綾川(府中町)の治水事業
『綾川広域河川改修事業』

香川県中讃土木事務所長 片山 秀樹



位置図



①平成16年10月台風23号による浸水状況

綾川は、香川県中央部に位置しており、その源を竜王山に発し、綾川町を経て坂出市内を流れ、瀬戸内海に注ぐ流路延長約38km、流域面積約138km²の二級河川です。

その流域は、四国有数の工業地帯である番の州工業地帯を擁する坂出市をはじめとし、綾川町にわたり、社会・経済・文化の基盤をなすとともに、多様な自然環境を有しています。

本水系においては、昭和初期より河川改修事業として河口から約8km間の築堤工事などを実施するほか、洪水調節及びかんがい用水補給のため昭和28年に長柄ダム、平成2年に支川田万川において田万ダムを整備しました。また、昭和41年には、府中ダムが完成し、番の州工業地帯へ工業用水を供給しています。

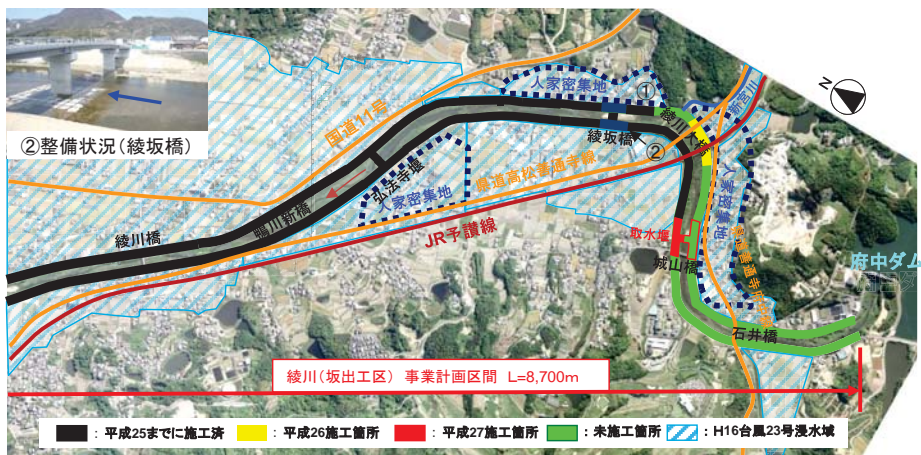
これまでに綾川では、流下能力不足のため、度々台風などの大雨によって氾濫を繰り返し、浸水被害が発生してきました。特に香川県全域に甚大な浸水被害をもたらした平成16年台風23号による出水では、綾川沿川の坂出市府中町等において425戸の浸水被害が発生しました。

このような現状において、概ね70年に1回程度発生する規模の洪水を安全に流下させることを目標として、昭和59年度から府中ダム下流の8.7km間を坂出工区として、河道掘削及び護岸整備を行っており、平成26年度末現在で、河口から約7.4kmまでの間の整備が完了しています。

坂出工区の特徴として、水辺の動植物の生息・生育環境の保全や周辺環境との調和に配慮しながら人と川とのふれあいの場が確保できるよう、親水性に配慮した護岸や高水敷の整備を行っています。

平成27年度は、取水堰の改築に着手するとともに、治水安全度の更なる向上をめざし、引き続き、護岸改修工事を行います。

今後も環境に配慮しつつ、平成16年台風23号出水時に発生したような浸水被害を早期に軽減できるよう、綾川の河川改修に取り組み、災害に強い快適な郷土を目指します。



『安全で安心なまちづくり』

坂出市長 綾 宏



坂出市は、香川県のほぼ中央に位置し、市の中心部は海岸沿いに平坦に開け、綾川を中心に豊かな田園地域が広がっており、海に出れば瀬戸大橋沿いに島々が連なり、瀬戸内海国立公園の美しい景観が見られ、郊外には、快適なドライブが楽しめる五色台スカイラインや、崇徳上皇ゆかりの白峯寺を有する五色台、県下でも有数の桜の名所として有名な常盤公園、山城の歴史が残る城山、讃岐富士と称される飯野山などがあり、海に山に自然豊かな人口約5万3千人の市であります。

かつては「塩のまち」として栄え、その後「番の州」の埋立てや塩田跡地を活用した臨海工業地帯の開発により港湾工業都市へ、また、昭和63年春に世界最長の鉄道道路併用橋である「瀬戸大橋」の開通を契機に「瀬戸大橋のまち」へと変貌を重ね、着実に発展を遂げてまいりました。地域特性を生かした個性豊かなまちづくりの必要性が高まる今、その歴史に注目した「古のロマンのまちさかいで」として新たなまちづくりを展開しております。さらに昨年12月には新市立病院が開院を迎え、「市民のための病院」としての使命を果たせるよう努めていくところです。

ところで綾川におきましては、竜王山に源を発し、府中ダムに流入し、その後坂出市内を流れ、瀬戸内海に注ぐ二級河川であり、規模において県を代表する河川の一つであります。現在、河川改修事業として、府中ダム下流の8.7km区間において流下能力増強を図る河床整備工事が進められており、併せて橋脚10基を有し流下能力を阻害していた綾坂橋の架け替え工事も平成26年度において整備され、流下能力も整備前より約3割程度増量されており残り1.5kmの早期完成が望まれているところです。また、今世紀前半にも発生が懸念されている東南海・南海地震による津波の発生に対し、市民の素早い避難行動に繋がるよう、緊急防災情報等を迅速かつ正確に提供するシステムの構築が求められていることから、防災行政無線整備を図るものです。災害から市民の生命と財産を守るため、災害の発生を未然に防止する対策に取り組むとともに、「自助」、「共助」、「公助」の連携のもと、被害を最小限にする減災対策を図り、市民参加の防災訓練の実施、地域における防災意識の高揚、自主防災組織の結成やその促進と育成に努め、地域防災組織体制の強化を図っております。



綾坂橋



防災訓練